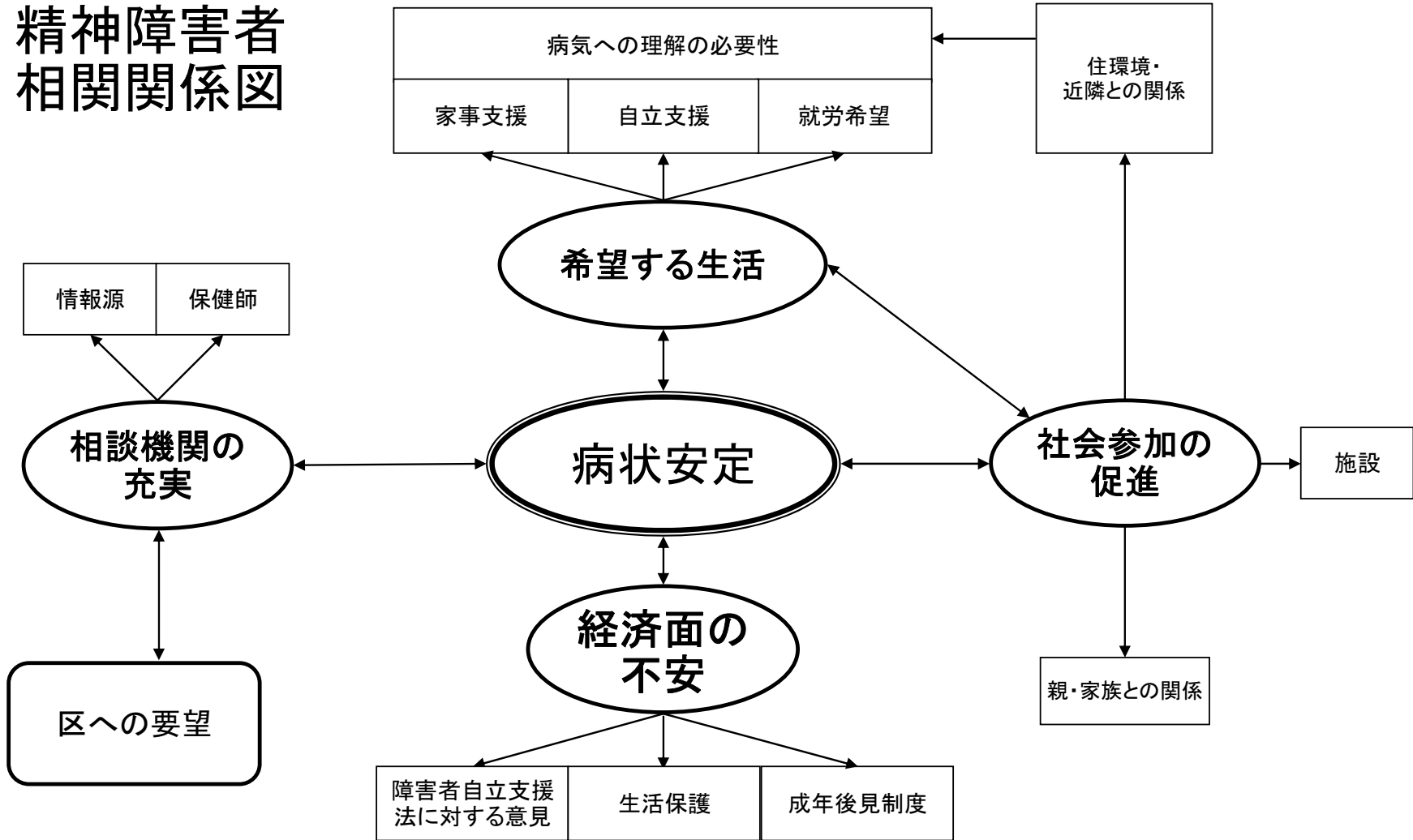


第6章

精神障害者

調査結果

精神障害者 相関関係図



第6章 精神障害調査結果

第1節 総論

本調査結果の特徴としては、精神障害者の最も切望していることとして、病状の安定が挙げられた。これは医学的な病状のみならず、地域においては精神障害者を取り巻く環境要因が生活のしづらさにつながっていることが浮きぼりとなった。

このことの裏づけとして、今回の調査において、「病気を治したい」「薬を飲まないで生活したい、前に戻りたい」と切望する声が寄せられているにも関わらず、その反面で「人ごみが怖い」「自分が障害者なのを知っている為、近所の人が喋ってくれない」など、本来なら個人の内面に潜む精神疾患とは無関係なはずの外的な要因（周囲の無理解）によって、せっかくの前向きな意欲が無に帰してしまいかねない状況が作り出されている問題が描出された。

したがって、本人の社会復帰や地域生活のバックアップを制度化し、行政施策として取り組んでいくうえで、区役所にはこれらの実情をどれだけ反映した施策を実行していけるか、あるいは既存の精神障害者保健福祉施策と、このような周囲の人びとに対するはたらきかけなどの関連施策との間で、どう整合性を持たせていくのか、といった課題に対し、正面から向き合うことが期待されている。

さて、調査で得られた数多くの意見を整理・分析した結果、下表のようなカテゴリーを生成することができた。鳥かん図的にみれば、次のようないくつかの特徴を見出すことができる。第一には、自分の病状の安定を望む声が多かった。精神障害者特有の症状として、「疲れやすい」「調子の良いときと悪いときの波がある」「被害妄想」などがある。第二に、思うように動けないために掃除・洗濯を苦手とする人にとってその作業は苦痛であり、「ホームヘルパーが有用である」という意見も出た。第三に、「ストレス発散」や「孤独を紛らせるためにお金を使ってしまう」「お金が減っていくことが精神不安定につながる」という、金銭的な問題に関わる意見も出た。病気を治す、あるいは安定させることが、ほとんどの人にとっての一番の希望である。そのために必要不可欠な薬代や通院代として医療費の負担が大きく、何らかの補助を望む声が多かった。第四に、「人ごみが怖いなどの理由から休日はほとんど家で過ごす」という意見がある反面、「孤独」を恐れる声も多かった。病状安定のためには人と関わることも必要であり、そのためのコミュニケーションの場を求める声も多かった。

病状安定	病気を治したい、薬を飲まないで生活したいなど
社会参加の促進	施設
	住環境・近隣との関係

	親・家族との関係
経済面の不安	障害者自立支援法に対する意見
	生活保護
	成年後見制度
相談機関の充実	情報源
	保健師
希望する生活	家事支援
	自立支援
	就労希望
	病気への理解の必要性
区への要望	公的負担や手続きをわかりやすくして欲しい、パソコンを自由に利用出来るサービスがあると良いなど

以上のようなニーズは、一見するとそれぞれが独立したものであるように感じられるかも知れない。しかしながら、それぞれの項目は、相互に関係性を持ったものだと言える。

したがって、繰り返しとなるが、今回寄せられた幅広いニーズに対して、区が、①従来どおりの福祉サービスの提供とその向上をもって対応すること、②庁内の調整会議・プロジェクトなど、縦割り機構の風通しをよくしたり、あるいは職員配置や窓口対応の向上など、行政機構・体制の見直しによって問題解決をめざすこと、③医療・保健の福祉専門機関との連携によって対応すること、④精神障害者福祉の専門的支援施設・団体や専門職との連携によって解決を図ること、⑤社会福祉協議会やNPOなどとの連携のもと、社会の偏見を解消したり、支援者の育成をめざすこと、⑥家族、知人、近隣住民などのインフォーマル（非制度的・非公的・非専門的）な社会資源との協力のもと、ないしはそれらを支援することで対応すること、⑦ピア・カウンセリングなどのように、当事者同士の支え合いの活動をバックアップすることで対応すること、といった多様なチャンネルをもって、それらを有機的に展開していくことが、精神障害者に共通する願いである。真に障害者の立場にたった施策づくりとその実行が期待されている。

第2節 調査結果詳細

1 病状安定

本調査において、不安要素の大半を占めるものが自分の病状に関することだという意見が多数であり、具体的な病状や不安なこととして以下のような事が挙げられた。

- 最近疲れている。

- 孤独、さびしいとお金を使ってしまう、ストレスがたまると使う。
- 一定の病状からなかなかぬけだせない。
- 精神障害に薬は絶対必要である。
- 被害妄想が出る事がある。
- お金が減っていく事で精神不安定になる。
- 人ごみが怖い。
- 体調面が心配だ。3ヶ月くらい寝ていた事もある。
- 病気だから良い時と悪い時がある。診断書が良いときだと困る。
- 調子の良い時、悪い時があるので心配だ。
- 重度でもある程度場所に行けたらというのが親の気持ちだが、そこまでいけない人も多い。
- 病気を治したい。
- 薬を飲まないで生活したい、前に戻りたい。
- 現在週1～2回通院しているが、もっと良くなりたい。
- 休日はほとんど家で過ごす。
- [障害者自立支援法における認定調査の] 106項目には様々な精神障害の症状が書かれてあり、それを読むと、自分もそうになってしまうのではと考えると怖くなる。

2 社会参加の促進

精神障害者の中には、一人でいることに寂しさや孤独を感じる人が少なくなかった。そうした寂しさがストレスとなって、金銭を浪費したり、病状の不安定につながったりしている。また一人でいることで、病気に関する情報が入ってきにくいということもある。

そのため精神障害者においては、人とつながることのできる場（＝社会参加の場）が必要となる。それは、精神障害者を対象とした作業所やデイケアといった場所だけでなく、単純に余暇を過ごしたり、集まったりすることのできる場を求める声が多かった。こうした場において、他の人と出会い、関わりをもつことで、コミュニケーションの輪を広げていくことができる。

病状を安定させ、精神障害者自身の自己実現につなげるためにも、治療的意味合いを含んだ場以外に、人と自然につながることのできる場が求められている。

地域でアルバイトやボランティアをすることも、社会参加の場の一つとして求める声が多かった。

《求められる対応》

- ◇ 精神障害であることを隠さず、安心してしていることのできる場の確保
- ◇ 住民の精神障害者への理解の促進
- ◇ 安心できる家庭環境を作るための家族支援
- ◇ 職員の援助の質の向上・能力に見合った仕事量の調節
- ◇ メンバー同士が話し合える場作りなど、施設機能の充実
- ◇ 住民の精神障害者への理解の促進
- ◇ さまざまなニーズに対応するための、居住施設の増設
- ◇ 子どもに関する悩みや、親の高齢化による問題等に対する、サポート体制の充実
- ◇ 親亡き後のことを考慮に入れた、精神障害者に対する支援

社会参加の促進を求める声について以下のような意見が挙がった。

【他者とのつながりを求める声】

- 一人暮らし、施設から帰ると一人でさみしくなってしまう。
 - 仲の良い友達が引っ越してしまうので落ち込んでしまう心配がある。
 - 孤独、さびしい時やストレスが溜まるとお金を使ってしまう。
 - 一人でつながりの無い人はどこから情報を得たら良いのかわからない。
 - 他の人とのコミュニケーションの輪を広げていく事が必要だ。
 - 様々な人の関わりが必要だ。
 - 当事者の会があるがリーダーが症状悪化で出来ない。
- 久しぶりに友達ができ、腹を割って話せるようになった。

【ボランティア・仕事・社会活動】

- アルバイトの需要が増えて欲しい。
 - クラブ等、余暇を与えてくれる場所が欲しい。
 - 精神障害者支援の為の色々な場所があると良い。
- 自分達がボランティアをする事は良い機会だし、地域の役に立っている、自己実現につながっている。
- 区役所の電話担当の仕事は辛かったけれど有意義、経験が勉強になった。
- アルバイトはやりがいがあり、病状安定にもつながる。
- 地域活動支援センターは利用したい場所を複数から選択出来るところが良い。

(1) 施設

施設に対しては、職員や仲間とつながることができ、また自分が認められる場として、心のよりどころとする声が多かった。施設に通い続けることで、病状の安定にもつながっているようだ。その一方で、職員の対応や仕事量に対しての意見もみられた。

なお、今回の調査において精神障害は施設等での集団面接であったが、日頃話せない

ことも話せたなど、肯定的な意見が多かった。調査に限らず、こうした精神障害者が互いに意見を言い合える場や機会を作っていくことが求められている。

【施設やその職員に関する意見】

- みんなで話し合う場がない。
- 意見を聞いてくれる場がない。
- 自分の事を考えてくれる人に就労担当になって欲しい。
- 職員が自分を受け止めてくれない事がある。
- 委託された仕事の入ってくる時期が偏っている。(夏休み等)
- 仕事の量が多すぎると残業が増え、疲れてしまう。
- 色々な事が出来認められる。
- 毎日通う(施設によっては働く)事で病状安定に繋がる。
- 色々な人と、色々な話が出来るのが良い。
- 心のよりどころになる。
- 仲間とつながるために重要な場所である。
- 毎日行っているから安心出来る場所である。
- 色々な人がバックアップしてくれる。
- 夜遅くても頼る事が出来る。
- 自分の事を受け止めてくれる職員がいる。
- 職員は臨機応変に動いてくれる。(通院同行等)

【本調査のグループインタビューを終えての感想】

- インタビューしてもらえて良かった。話しにくい事も話せる。
- いろいろ話せた。こういう機会をぜひまた作って欲しい。

(2) 住環境・近隣との関係

居住関係では、近隣住民の精神障害者に対する理解が得にくいため、住み心地の悪さを感じるといったことが挙げられた。そのことは、精神障害者が他の住民とコミュニケーションをとっていくことが難しいということもあるが、精神障害者に対しての偏見も原因の1つとして考えられる。精神障害者に対しての正しい理解を促すことが求められる。

また、グループホームや共同住宅等を求める声も挙げられた。こうした場を増やし、充実させていくことで、一人一人に合った居住の場を選択することが可能になるのではないかと考えられる。

【居住や日中生活をする場】

- 静かなところが好きだけど、今住んでいるところは騒音がひどい。
- デイケアに長く通いたい。
- グループホームがあると良い。
- 地域活動支援センターに通って、平和に暮らしたい。

- ずっと安心して暮らしていきたいが、グループホームには期限があるため、専門職員が配置されている共同住宅があると良い。
- 住み続けられる安心した場所が欲しい。

【近隣との関係】

- 近隣との関係性が難しいため、住み心地が悪いと感じる。
 - 自分が障害者なのを知っている為、近所の人が喋ってくれない。けれど、生活保護を受給しているため、自由に引っ越す事が出来ない。
 - ヘルパーが来る事を大家の承諾を得るように言われた。
- 前は失業者という目で見られたが、障害者だという事で周りが優しくなった。

(3) 親・家族との関係

精神障害者と家族については、特に親との関係に深い結びつきが見られた。しかしそれは、障害への理解の有無によって差が見られ、親が障害に対し理解をしている場合は、全面的に援助していることが多かったが、逆になかなか理解をすることができず、関係が良好でない場合も見られた。そうした点から、親が子どもに対しての悩みなどを共有できる場として、家族会は重要だといえる。

また、精神障害の特徴として、病気が長期的で慢性化しやすいため、精神障害者を支える親も高齢となり、介護の心配や親亡き後の生活を懸念する声も聞かれた。

親の高齢化とともに、抱える問題は多岐にわたってくる。親自身へのサポート体制が求められている。

【親との関係】

- 父は理解があるが母の理解がなく、頻繁に怒られる。
- 両親に頼っている事が多い。

【親の高齢化に伴う問題】

- 親が高齢、体調面が心配である。
- 母が認知症の症状が出てきている。
- 母が脳梗塞で入院してしまい心配している。
- 親がいなくなった時の犬の世話が心配である。
- 両親が亡くなったあとの親戚づきあいが心配である。

3 経済面の不安

精神障害の症状により仕事が出来ず、経済面で安定していないのが問題として挙げられた。さらに、仕事をしなければならないという気持ちが症状を悪化させ悪循環となっている。この悪循環を軽減するためにも、以降の項目にある障害者自立支援法や生活保護等の制度も含め生活環境を経済面から支援することが必要と考える。

また、相談や金銭問題をはじめとする身辺管理についての支援を求める声がある一方、

成年後見制度については、知らないと答える人が多かった。

《求められる対応》

- ◇病状安定の為の経費軽減
- ◇申請の簡略化、または代行等の支援
- ◇成年後見制度の充実

経済面の不安に関して以下のような意見が挙げられた。

- 年金がもらえるのか心配、貯金がなくなったときが心配だ。
- 最初は年金が支給されず、今はもらっているが今度の更新でももらえるか心配だ。
- 経済面が心配だ。
- 現在もお金が不足している。
- 貯金が出来ない。
- 工賃、年金不足の為、娯楽などに使えない。
- 一人暮らしで家が古く、修築費など経済的に困っている。
- 年金額が足りない。
- 税金、水道料金、一人暮らしの障害者に安くして欲しい。
- アパートの家賃がもっと安くして欲しい。

(1) 障害者自立支援法に対する意見

近年成立された障害者自立支援法において、主に施行前と変わったことについて質問したところ以下のような解答があった。特に手続きが複雑化した事、また経済的負担の増大という意見が多かった。

- 障害者自立支援法をやめて区に援助して欲しい。
- 障害者自立支援法が始まって手続きが大変だ。
- 医療費の負担が1割に上がり、大変苦しめられている。
- 利用料の内訳がわかりにくい。
- 施設の利用料など負担が多い。
- 工賃を上げて欲しい。
- 工賃から利用料が取られ財政難である。
- 支出が増え、金銭的に不安である。
- ホームヘルパーの利用料を安くして欲しい。

(2) 生活保護

本項目では、生活保護で給付された金銭の使い道や受給する際に感じたことについての発言が多かった。また、生活に関する多岐にわたるニーズが挙がった。

- 生活保護の風呂券がなくなって困っている、年末のお餅代も廃止された。

- 生活保護は水道料金を無料にして欲しい。
- 生活保護において職員に家計簿をつけるように言われチェックされるので面倒に感じる。
- 使い道について色々言われる。自分で考えて使いたい。管理されているように感じる。
- 生活保護は、生活に必要なお金を要求しているのに文句を言われるのはおかしいと思う。
- もし生活支援だけになったらどうなるか不安を感じる。
- 作業所に行かないと努力して無いと言われ、生活保護が支給出来ない。プレッシャーがかかる。
- 生活保護から抜け出して良い生活をしたい。
- 生活保護の支給に関する正確な情報が不足している。

(3) 成年後見制度

本項目については、インタビューをしていく中で提案として後見制度について質問したところ、以下のような意見が出た。

- 後見人への信頼が持てない。
- 両親の従兄弟などもいるがお互いに負担になりそうで気が引ける。
- 後見人について区役所が分かりやすく教えて欲しい。

4 相談機関の充実

相談機関については、ニーズ等が多岐にわたった。まず相手については、悩みはあるものの病状の関係で他人との関係性を構築するのが難しく、本人の血縁関係にある人や公共機関の職員が相手と限られてしまうことが多い。そのため、客観的に相談を聞くことができる第三者的な相談機関の存在が必要とされていると考えられる。次に内容としては自身の体調等、今後のことについても不安が見られ、相談を受ける相手がいることで安心感を持つことが、その後の精神的安定にもかかわってくるのではないかと感じた。時間帯は、不安になるのは夜等、一人でいるときが多いことからその時間に対応できることが必要となる。以上のことから、病状による不安軽減への支援も含め障害にあった相談機関が必要だと考えられる。

また、保健師については、担当となる人によって提供されるサービスや情報が異なるため、以下のような意見が出たと考える。また、担当保健師等の異動などにより定期的に一から説明しなくてはならないことが負担になっていることがわかった。

《求められる対応》

- ◇多岐にわたるニーズに対応した総合相談機関の設置
- ◇相談をする際の、利用者の金銭的負担を軽減させる。
- ◇障害者本人に関わる関係者同士による情報交換や引継ぎ等の連携を図る。

相談については、多岐にわたる意見があった。そのためカテゴリー分けをして分析を行った。

【相談相手】

- 相談相手：親、作業所等の施設職員、保健師、兄弟、医師、友達、ソーシャルワーカー、前に在籍していたメンバー、民生委員
- 保健師との関係が築けなかった為、相談できる人がいなくなってしまった。
- お金の管理の事を教えてくれる人がいて欲しい。
- 相談出来る人はいるが、公的に連絡出来る場所が欲しい。
- 家族の問題を相談する相手がいない。

【相談内容】

- 家族との関係性が良くない為、将来の金銭面が心配である。
- 生活全般の相談相手が欲しい。
- 周りに保証人になってくれる人がいない。
- 糖尿病予備軍なので体調面が心配だ。
- 薬について知りたい。
- 現在兄が保証人だが、変えたいと考えている。
- 金銭面について相談したい。
- ホームヘルパーを頼むとどれだけお金がかかるかわからない。
- 母が亡くなった後の金銭管理が心配である。
- 死ぬ事が心配。一人暮らしだから葬式について心配している。

【相談したい時間】

- 夜、日曜なども相談出来る場所を設置して欲しい。
- 不安になったときに一定の時間以降は電話をかけられるところがない。

【教えて欲しい情報内容】

- 色々な作業所の情報が欲しい。
- 障害者に対する情報が不足している。
- 年金についての情報をわかりやすくして欲しい。
- 福祉サービスは知らないと使えない。
- 福祉サービスがわからない。

【その他】

- 行政サービスはあまり受けてない。
- 情報についてはあまり考えていない。
- 文京区より他のところへいけない。今の所にいるより他ない。

(1) 情報源

主な情報源についての質問では、保健師・施設・親・仲間という回答が大半であった。

- 保健師が病院やデイケアを紹介してくれた。
- 保健師が情報をくれた。
- 施設関係者から情報はもらえる。
- 施設から自立支援法についての情報をもらった。
- 親から情報はもらえる。
- 仲間が情報をくれる。

(2) 保健師

保健師に関する意見として、以下のようなことがあげられた。

- 保健師の担当が変わると一から自分の病状を説明しないといけない。
- 保健師は出来る事と出来ない事がある。通院に同行して欲しい。
- 担当の保健師が変わって家庭訪問がなくなった。何かあったらシビックに行かなくてはならない。
- 保健師が新聞の処分の仕方など細かい事も教えてくれて助かった。

5 希望する生活

希望する生活について質問したところ、いくつかの具体的な希望を実現するための個々人のニーズに合わせた自立支援を求める声が上がった。

まずは、家事支援に関する声が聞かれた。回復期にあっても家事の負担は大きいと、本調査では家事支援の重要性が浮かび上がった。体調の変化に合わせて適切に家事支援を利用できる制度が望まれる。

就労の希望の有無を質問した際には、希望する側の意見として、社員として働きたいというような意見があった。そのためには就職先の障害に対する理解が必要不可欠であり、体調に合わせて働ける職場を望む声があった。

また、企業に就職したいという思いがあっても自分が具体的に何をしたらよいかかわからない、ハローワークに一人で行くのは大変という意見もあったことから、例えばハローワークへの付き添い等の、就労支援のサービスが必要であると考えられる。

就労に対しては年齢や体調等の理由からそれを望まないという意見や「働きたくない」という気持ちを認めて欲しいという意見もあった。ただ単に就労支援を進めていくだけでなく、個々人に合った対応が求められている。

《求められる対応》

- ◇精神障害分野での家事支援の充実と、体調の変化に合わせて利用することのできるよう、柔軟な制度運用
- ◇自立支援対策
- ◇精神障害者に対する就労支援サービス
- ◇障害理解のある就労先の確保
- ◇地域生活支援事業の充実

(1) 家事支援

家事支援・ホームヘルパーを求める声、また家事支援が大変有用であるという声が聞かれた。

- 家事ヘルパーが必要である。
- 掃除、洗濯が出来ない、思うように動けない。
- ヘルパーがリサイクルの店や洗濯の仕方を教えてくれる。
- ヘルパーが来てくれて助かっている。
- 良いヘルパーがいると生活の質が上がる。

(2) 自立支援

まだ希望する生活について考えられないという意見もあったが、以下の項目が具体的な希望として挙げられた。

- 外に出たい。
- 自信を取り戻したい。
- 結婚して家庭を持ちたい。
- 福祉関係で資格を取りたい。
- 趣味を仕事に活かして生活したい。
- あまり先の事は考えていない。

(3) 就労希望

就職したいという希望と就職に対する不安があげられ、就労に関する支援を求める声があった。また病状や年齢等の理由から、就労を望まないという意見もあった。

【就労における希望】

- 3年後仕事を見つけて社員になりたい。
- 今後就職を希望している。
- いずれは正社員になりたい。
- 月20万円くらい稼げる職に就きたい。
- あと週2日は軽作業で働きたい。

- 会社説明会に行きとても気に入った。そこに就職出来ればという思いが活力になっている。

【就労支援サービスに対する意見】

- 作業所ではものたりないところもある。でも、今の状態だと1日働ける自信が無い。
- ハローワークに行ったが自分一人だと、どうしたら良いかわからない。
- 一人でハローワークに行くのが大変。一緒に行ってくれる人がいると良い。
- ハローワークに行っているが面接までいけず憤りを感じる。
- 東京障害者職業センターでの就業体験があまりよくなかった。
- 企業でやっているような訓練が出来る施設を区でも作って欲しい。

【就職先の理解の希望】

- 企業側に病気を知ってもらいたい。
- 今何やっているか聞かれると病気だと言えない。うそをついてしまう。面接のときが嫌だ。
- 面接で落とされるのではないかと思う。
- 体調に合わせてくれる職業環境が欲しい。
- ハローワークの就労担当から「あなたは働く力が無いから」と就労に反対されて、働く自信がなくなった。
- 就職しやすくなったのは良い。
- 支援者が障害者にとって働きやすい職場というのを、社長自ら考えてくれている。
- 区の仕事は病気を打ち明けて働ける。

【就労希望しない】

- 再就職は体調もあってきつい。特に希望はない。
- 「働かなくてはいけない」という風潮が辛い。家族からも作業所に行っている事への風当たり強い。
- もう60代も過ぎているし就職は希望しない。
- 「働きたくない」という気持ちを認めて欲しい。

(4) 病気への理解の必要性

病気のことを回りに打ち明ける事が困難であり、精神障害者に対する正しい理解を求める声が多かった。

- 病気だと言にくい。
- 一般の人にもサービスの価値を情報発信して欲しい。
- 障害者は劣るものと思わないで欲しい、思い込みだけで差別しないで欲しい。
- 偏見の目、差別などがなくなる為のポスターを作って欲しい。
- 障害者手帳を持っているだけで差別される。
- うつ病を受け入れている作業所も少ない、理解が欲しい。

- 地域生活の問題、自分が病気だと知られたくない、よく理解されていけば知られても良い。
 - もっと許しあえる社会になって欲しい。
 - 不動産屋による障害者の差別がある。
- 精神分裂病から統合失調症に名前が変わって公言しやすくなった。

6 区への要望

区に対しての意見は、区役所・サービス・区報に関するものが多かった。

区役所については、構造的に分かりづらく、利用する頻度も少ない等、肯定的な意見はあまり見られなかった。区役所内での工夫をはかり、区民にとってより身近なものへの改善が求められている。

サービスについては、講習(パソコン等)に対する意見が多く、費用や内容等の見直しをし、より充実させていくことが求められている。また手続きや、利用できる制度を分かりやすく提示して欲しいという声や、作業所やグループホームなどの施設を増やして欲しいという声も聞かれた。

区報に関しては、より区民のニーズに即したものを求める声が多かった。また、区報によって精神障害の理解の促進をはかる意見も聞かれ、内容を見直していくことが求められている。

【区役所】

- 区役所へはあまり行かない。行っても何をしたら良いかわからない。
- シビックセンターは大きくてわかりにくい。

【サービス】

- 公的負担や手続きをわかりやすくして欲しい。
 - 区でパソコンを自由に利用出来るサービスがあると良い。
 - Bーぐるを無料化にして欲しい。
 - 福祉に力をいれて欲しい。
 - 行政の人と良好な関係を築きたい。
 - 自立支援で集めたお金がどのように使われているのかを明確に示して欲しい。
 - 文京区内の作業所やグループホームを増やして欲しい。
 - 講習をもっと安くして欲しい。(パソコンなど)
- 区からのサービスにあるパソコン教室が良い。

【区報】

- 区民のニーズをもっと聞いて区報を作って欲しい。
- 区報の内容を誰が見ても分かるようにして欲しい。
- 理解の促進を図るため、医者の文章を区報に載せて欲しい。

【本調査】

第6章 精神障害

- 施設に通えず外出すら出来ない人もいる。今回の調査はまだ病状が良い人であり、全てではない。